

北海道を代表 する工場群と 職人のまち

福山醸造



サッポロビール博物館



札幌は昔から役人と商人のまちで、大工場がないのが特徴だった。北海道の開拓を本格的に進めた開拓使はアメリカから招聘したホーレス・ケプローンの指導のもと、ニューイングランドの工業団地方式を導入し、1872（明治5）年、札幌の中心部からやや東方面の4ブロック（現在の北1条東1〜4丁目）に、北海道初の工業団地「札幌器械所」を設置した。輸入した蒸気機関やタービン水車を動力にした製材工場、製鉄所、鋳造所、製粉所、刃物工場など30棟以上の製造工場を集積させ、この地区を開拓に必要なインフラ整備の拠点とした。

工業団地は昭和30年代の都市化に伴い、郊外への移転やデパートの配送センター化が進められ、その中心的機能を果たした「札幌市工業局」は開拓の村に移築保存されており、現在、この辺りは、歯車工場、製缶工場などが密集する東京蒲田に近い雰囲気をもつ地域となっている。

苗穂地区は、この「札幌器械所」があつた地域に隣接している。国鉄苗穂駅周辺は、豊平川の豊かな伏流水や貨物輸送の利便性から、国鉄車両工場、札幌ビール（元ビート工場）、雪印乳業、福山醸造、フルヤ製菓などの工場が集積し、その職員やOBが住む「産業のまち」として栄えた。現在でも大小様々な工場や倉庫が建ち並んで下町の雰囲気をつくり、北海道に根ざした代表的な企業

が製造を続け、また、記念館・博物館を整備し、北海道の産業の歴史を伝えている。

【福山醸造株式会社】

前身の福山商店は、1891（明治24）年に創業。1918（大正7）年に札幌駅前から苗穂地区に移転し、1951（昭和26）年にトモエ醤油、1955（昭和30）年に福山醸造に社名を変更した。現在でもここで醤油を製造しており、全道一のシェアを誇る。11棟のレンガ積みのはりば、醗酵工場は87年の歴史をもつ建築遺産としても価値が高い。現役工場であり内部の見学はできないが、古いれんが造りに創業110年を超える軌跡が刻まれているようだ。

【サッポロビール博物館】

1987（昭和62）年に開館した日本で唯一のビール博物館。建物は、1890（明治23）年に札幌製糖会社の工場として建設され、その後札幌麦酒会社の製麦工場として使われた明治の面影を残す赤れんが造りの貴重な遺産だ。1876（明治9）年開拓使麦酒醸造所の誕生からのサッポロビールの歴史を中心とした日本のビール産業史を豊富な資料・映像や明治以来のポスターなどで説明し、実物資料の中では札幌工場2003（平成15）年まで使用していた直径6・1m、500ml缶で17万本にあたるビール仕込み用の煮沸釜は圧巻である。